

# 法螺貝のため息

～資本主義的商品としての生命体に関する考え～

海面下

海藻に身を任せながら  
藻とプランクトンを美食する

私は成長し 美しい貝になる  
オキーフの絵のような  
うす桃色の衣をまとい眩い唇

ある日

漁師は私を袋に押し込め  
ナイフを差し入れた  
私を守る美しい衣は  
意志をもたね装身具として  
虚ろな人生のごとく  
死ぬほど退屈している  
人間どもへ  
売られてゆく

私は飾りもの  
利益に目がくらみ  
その影に苦しむ私の  
気持がわかるうか

何故に憐れみの声は  
富の前に  
こんなにも無力なのか



**悟:** ビジネスの世界で「思いやり」を期待するのは、甘過ぎませんか？

**玲亜:** 短期的に見れば、確かにそうでしょうが、長期的に見れば、そうとは言えません。長期的な視野で見れば「自我」と「その他」の区別は打破されます。時間は、偉大なホモジナイザーです！

**ティン:** 私の願いは、より多くの人々に他者理解をすすめて欲しいということです。すべての人生の糸が織り込まれるのです。

**ミン:** ……うーん。誰が機織りするの？

- T Newfields (和訳 吉田典子)

開始: 1994年 静岡市・★ 完成: 2017年 横浜市

